

「このまちで 時を刻むまち とともに 生きる しあわせな 尾花沢」を目指して

雪とスイカと花笠のまち 尾花沢市

尾花沢市は、山形県の北東部に位置し、東西約25km、南北約33km、面積は372・53kmあります。気候は、夏は暑く、冬は寒い、四季の移り変わりが明瞭です。平野部でも積雪深が2mに及ぶ全国有数の豪雪地帯でもあり、飛驒の高山、越後の高田と並び「日本三雪の地」と称され、歴史と文化が息づくまち並みと美しい雪景色が眺望できます。

夏スイカ生産量日本一を誇る「尾花沢すいか」は、7月中旬から1カ月半の期間で1万1000t、約92万玉のスイカを出荷します。昼夜の寒暖差が生み出す抜群の甘さとシャリ感で、一口食べると納得のおいしさです。

また、黒毛和牛の飼育も盛んで、県内一の約9000頭を飼育

しており、年々人気が高まっています。中でも、厳しい冬を2回越した、月齢32カ月以上で未経産の雌牛が「雪降り和牛尾花沢」のブランドで出荷されており、厳しい寒さに耐えた自然なサシが入ったとろけるような肉質には、生産者の高い技術と熱い思いが詰まっています。

銀山温泉は、山形を代表する名湯として知られています。温泉街のロケーションもまた格別で、ガス灯がともる夕暮れ時の風景は見る者を魅了します。情緒豊かな風景を後世に伝えるため、銀山温泉家並保存条例を昭和60年に制定し、大正ロマン漂う景観の保存に努めております。

また、市民憩いの場となってい

る徳良湖は、「花笠音頭」「花笠踊り」発祥の地です。大正8年から

始まった徳良湖築堤工事の際に唄われていた土搗き唄が「花笠音頭」の始まりとされています。また、土搗き唄に合わせてかぶっていたスゲ笠を手に持って、休憩時間に即興で踊ったものが「花笠踊り」の原型とされています。現在、市内には上町流、寺内流、原田流、安久戸流、名木沢流の5流派が伝承しています。

毎年8月27、28日に行われる「おばなざわ花笠まつり」では、フィナーレを飾る花笠踊り大パレードで、約3000名の踊り手による勇壮華麗な笠踊りが披露されます。

徳良湖築堤100周年

徳良湖が大正10年に完成してか



ヨットやボートを楽しむことができる徳良湖

ら、本年度築堤100周年を迎えます。大正8年から約7万人という多くの人々の力で徳良湖は造られました。そのような先人たちの思いを引き継ぎ、これまでも「市民憩いの場」として多くの方から親しまれてきました。徳良湖周辺には、サンビレッジ徳良湖オートキャンプ場や、グラウンドゴルフ場、徳良湖温泉花笠の湯などの施設があります。これに加え、徳良湖を「観光交流拠点」としてさらに魅力的になるよう「徳良湖周辺整備マスタープラン」を平成29年



新雪を進むスノーバギー（徳良湖 WINTER JAM）

「日本三雪の地」と称される豪雪地帯の本市では、市民生活における除雪などの負担が大きく、そのことが人口流出の一因となっております。そのような中、雪のネガティブなイメージを払拭し、有効に活用することを目的に、平成28年度から雪を楽しむイベント「尾花沢雪まつり〜徳良湖 WINTER JAM〜」を始めました。また、平成29年度からは「徳良湖スノーランド」



尾花沢市公式 YouTubeチャンネル QRコードから尾花沢の魅力をご覧ください

雪を楽しむ尾花沢

度」に策定し、子ども広場の整備やモジュラーパンプトラックの設置、地域おこし協力隊によるカフェのオープンなど、より一層のにぎわいの創出につながるよう計画的に取り組んでまいりました。今後、花畑の造成などを行い、「市民憩いの場」と「観光交流拠点」の二つの視点から交流人口や関係人口の拡大に取り組んでまいります。



まちの将来像のイメージ図（ひとが活きるみらい尾花沢しあわせプラン）

令和3年度より第7次尾花沢市総合振興計画「ひとが活きるみらい尾花沢しあわせプラン」がスタートしました。この計画の策定に当たり取り組んだまちづくりアクションシートや市民ワークショップ、まちづくり座談会を通して、「や

ひとが活きるみらい尾花沢しあわせプランの策定

を開設し、1月から3月までの2か月間、小さな子どもたちはソリ遊びを、若い人たちはスノーモービルやバギー、エアボードなどのアクティビティを手軽に楽しむことができる環境を整備し、市内外を問わず、訪れた多くの方から雪を楽しんでいただいております。

プロフィール

- ◆ 面積 372.53 km²
- ◆ 人口 1万5125人
- ◆ 世帯数 5374世帯

〔将来都市像〕このまちで、ともに生きる しあわせな時を刻むまち 尾花沢

〔まちの特徴〕山形県の北東部に位置し、気候は寒暖の差が大きく、冬は平野でも積雪深が2mに及ぶ全国有数の豪雪地帯



尾花沢市長 菅根光雄



〔特産品〕尾花沢すいか、尾花沢牛（雪降り和牛）、そば（原種最上早生）、上の畑焼など

〔観光〕銀山温泉、徳良湖、徳良湖温泉花笠の湯、芭蕉、清風歴史資料館など

〔イベント〕徳良湖まつり、おばなざわ花笠まつりと大パレード、まるだし尾花沢ふれあいまつり、尾花沢雪まつり〜徳良湖 WINTER JAM〜

りがいのある農業」「魅力あふれる観光」「世界を視野に入れたモノづくり」「子育て日本一」「生きがいづくり」「健康長寿」「雪国の暮らしやすさ」「災害対策の強化」「地域の支え合い」などのキーワードが見えてきました。こうしたキーワードを踏まえ、将来にわたって持続的に発展し続けるため、五つの政策の柱を基本目標に掲げました。

地域資源を活かした産業文化の振興、雪や災害に強い防災力の強化、豊かで活力ある地域づくりに取り組みながら、それぞれの分野で一人一人が活躍できるまちづくりを推進させ、ここで生きる全てのの人たちと一緒に新たな時代の尾花沢をつくっていくことで、「このまちで、ともに、生きる、しあわせな時を刻むまち 尾花沢」の実現を目指しています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

持続可能都市「坂東」を目指して

豊かな自然と
歴史が息づくまち

利根川の恵みを受けた大地に広がる田畑の実り、コハクチョウなど生き物の宝庫「菅生沼」、坂東を本拠地として平安時代に関八州を制した「平将門公」、さらには、日本茶海外輸出の先駆けとなった



威風堂々にして勇猛果敢。総勢100名の武者行列「将門まつり」

「さしま茶」。坂東市は、都心から50km圏内、茨城県の南西部に位置し、風光明媚な豊かな自然と、綿々と受け継がれる伝統・歴史が融和した都市です。市内には、平将門公を祭神とする國王神社(茨城県指定文化財)をはじめ、胴

塚として知られる延命院など、数々の史跡や伝承が残されており、毎年11月には、郷土の民を想い奔走した将門公の勇姿をよみがえらせようと、昭和47年から続く「将門まつり」が開催されています。「神田明神将門太鼓」の勇壮な音色が響き渡り、鎧武者や姫に扮した総勢100名の武者行列に、福島県相馬野馬追騎馬隊の進軍が一層の華を添え、秋を彩る風物詩として多くの方にお楽しみいただいております。また、本市を代表する特産品のさしま茶は、江戸時代、日本で初めて海外輸出に成功した日本茶として名声を博した一品です。利根川流域の肥沃な大地で、冬の寒さに耐えた茶葉には厚みがあり、濃厚さと深いコク、香りの高さを特徴としており、日本茶の輸出は、

地元の豪農・中山元成氏によって成し遂げられた偉業です。先人たちが築き上げた隆盛への礎は、今こうして本市の大きな財産となつて息づいております。

新たな産業基盤の構築

住み慣れたまちで安心して働き続けることができる、ひいては移住・定住の促進につなげ、活力あふれるまちであり続けるためには、圏央道(首都圏中央連絡自動車道)を生かした土地利用や雇用の創出、地域の魅力発信、にぎわいづくりに着目した事業展開が必要であると考えています。そのため、坂東インターチェンジ周辺のアクセス関連道路の整備や企業誘致に積極的に取り組んでいます。現在は、圏央道の4車線化整備と併せて、坂東パーキングエリア



整備が進められている坂東インター工業団地

(仮称)の整備が進められていることから、そこに連結可能な情報発信機能・防災機能・休憩施設を兼ね備えた施設整備の、具体的な検討を重ねております。また、平成28年に開始した坂東インター工業団地の分譲は好評で、完売目前となっており、産業拠点としての発展に向けたさらなる事業展開を図ってまいりたいと考えております。

商品券で生活支援・経済対策

コロナ禍において「市民が市民を助ける」施策として、1万円分の商品券を5000円で市民に販売し、対象の加盟店は換金時に5%上乗せされる、全国初の「W（ダブル）プレミアム商品券」事業と同様に5%の上乗せはされますが、1万円分の商品券を同額で販売する「地域応援商品券」事業を、令和2年に引き続き本年も実施しており、市内消費の落ち込みの復活・拡大を目指しております。

人を育て、地域を育てる



満開の桜の下で開かれる「古城まつり」

本市では、市民、団体、事業者、行政など、全ての人が力を合わせ「みんなでつくる」まちづくりを推進していきます。目まぐるしく変化する社会情勢や新たな市民ニーズに対応するためには、まちづくりの主役である市民の力が欠かせません。若者をはじめ、ま

ちづくりのリーダーとなる人材の発掘や育成、そして何より、ここに集う全ての世代の人たちが、積極的にまちづくりに参加したくなる環境を整えることが重要であると考えております。そのため、地元の高校生や団体の皆さまと意見を交換しながら、市の現状を知り、今後のまちづくりを一緒に考える機会を大切にしてまいります。

また、基幹産業である農業を支える取り組みの強化を図っております。本市は、地域の約半分を農地が占めており、全国有数の生鮮野菜供給基地でもあります。首都圏でのトップセールスや生産者と連携した積極的なPR活動を実施し、坂東ブランドの知名度アップと販路拡大を図るとともに、農業の担い手の確保と育成、認定農業者増加支援を行い、市の強みを最大限に生かしたまちづくりを推進しております。

坂東市の未来をつなぐ

世界中が歴史を変えざるほどのパンデミックの渦中にあつて、ウィズコロナ・アフターコロナの時代をどう歩んでいくのが喫緊の課題であると考えております。ま

た、人口減少や少子高齢化、気候変動に伴う災害リスクの増大などの課題は、本市においても例外ではありません。

この先の未来で、私たちの子や孫の世代が、愛するふるさとで安心して暮らせていきたいな。そんな思いを胸に、今後も、事業の選択と集中による未来投資を図り、持続可能都市「坂東」を目指して誠心誠意取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 123.03 km²
- ◆ 人口 5万3180人
- ◆ 世帯数 2万903世帯

〔将来都市像〕 みんなでつくる やすらぎと生きがい 賑わいのある都市 (まち) 坂東

〔まちの特徴〕 水と緑につつまれた豊かな自然と、綿々と受け継がれる伝統・歴史が融和したまち

〔市町村合併〕 平成17年3月22日 岩井市・猿島町 新設合併



坂東市長
木村敏文



〔特産品〕 さし茶、白菜、トマト、ネギ、レタス、セルリー、ブドウ

〔観光〕 國王神社・延命院をはじめとする平将門公ゆかりの史跡、逆井城跡公園、八坂公園、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、菅生沼

〔イベント〕 坂東市ふる里さしま古城まつり、坂東レンゲまつり、坂東市岩井将門まつり、坂東市将門ハーフレマソン大会



國王神社を訪れるツアー客

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「いつまでも住み続けたいまち」の
実現に向けて

自然と調和した
利便性の高いコンパクトな
まちづくり

京田辺市は、京都・大阪・奈良の
主要都市まで約30分という好立地
にありながら、東に木津川、西に
生駒山系に連なる甘南備山が控え



令和5年度に全線開通予定の「新名神高速道路 八幡京田辺JCT+IC」



国宝十一面観音立像を安置する「大御堂観音寺」のライトアップ

るなど、豊かな自然環境に恵まれ
たまちです。古くから交通の要衝
として栄え、南山城地域の行政・
経済・文化の中心地として発展し
てきました。市内には一休さんが
晩年を過ごした寺として有名な
酬恩庵一休寺や、国宝の十一面
観音立像を安置する大御堂観音寺

があり、桜や紅葉といった四季
折々の花景色は見ごたえがあり
ます。

優れた交通利便性と豊かな自然
環境、子育て支援の充実などに
よ、子育て世代を中心とした転入
が続ぎ、平成27年の国勢調査で人
口7万人を超えました。さらに、
今後10年程度は人口が増加すると
見込んでおり、昭和59年に設定し
た将来都市像を一貫して目指すま
ちづくりが、着実に実を結んでい
ると実感しています。

これからも貴重な資源である自
然や優良な農地の保全を図りなが
ら、利便性の高いコンパクトな都
市構造を形成していくとともに、
高速道路網を生かした工業・流通
拠点の充実を図るなど、自然環
境、市民の暮らし、都市機能が調
和したまちづくりを進めます。

さらに、新名神高速道路の全線
開通や将来的な北陸新幹線の新駅
設置を見据え、人とモノの大きな
流れを呼び込むための広域的な結
節点を目指します。

健康で活力に満ちた
まちづくり

本市では、「健康」「幸せ」とい
う言葉を組み合わせた「健康」を
テーマに、歩く健康づくりや食
育、健康スポーツ事業など、健
康への意識啓発と健康管理を促進
しています。

特に、緑や水辺などの自然を五
感で感じながらウォーキングを楽
しみ、健康づくりができる「水
辺の散策路」の整備を進め、本年
3月に全10ルートが完成したとこ
ろです。快適に散策を楽しむた
め、各ルートへ案内看板・路面標
示を配置するだけでなく、ルート
マップを表示し、現在地をリアル
タイムで確認できるスマートフォン
アプリ「ambula map」もリリー
スしました。外出自粛が求められ



本年度で34回目の開催となった本市の夏の風物詩「全国小学生ハンドボール大会」(田辺中央体育館にて)

また、昭和63年に開催された第43回国民体育大会(京都国体秋季大会)を契機とし、ハンドボール競技の普及と啓発にも取り組んでいます。その一環で始まった「全国



日本遺産「飯岡の茶畑」の景観が楽しめる「水辺の散策路・普賢寺川お茶どころルート」(平成30年5月のルート開通イベントの様子)

るコロナ禍において、市民の皆さんには自然豊かな散策路をウォーキングいただき、心身共に健やかに過ごしていただくことを願っています。

小学生ハンドボール大会」も本年度で34回目の開催となり、小学生ハンドボールの聖地として知られるようになりました。30年以上の歴史を持つ本大会では、全国から予選を勝ち抜いた、男女合わせて約90チームが本市に結集し、毎年8月初旬に熱戦を繰り広げます。今春には、会場となる田辺中央体育館のアリーナ床面を全面改修し、競技の支障となる気流が発生しない空調設備「床輻射冷暖房システム」(国内2例目)を導入しました。また、トイレのバリアフリー化なども併せて実施し、全ての利用者に対して安全で快適なスポーツ環境を提供できる施設へと生まれ変わりました。今後、健康づくりやスポーツに参加する機会の充実を図り、だれもがいつまでも健康で自分らしく生きることのできるまちを目指します。

市民一人一人の居場所や 出番を意識した 「参画と人のつながり」 によるまちづくり

本市では、本年度に新たな試みとして「京田辺市民まつり(愛称…

たなフェス)」を開催すべく準備を進めてきました。これまで秋の風物詩だった「市民文化祭」と「産業祭」を融合し、それぞれの伝統と功績を引き継ぎ、ふるさと京田辺への愛着を一層育むことが狙いです。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、今秋の開催は難しくなりましたが、コロナ禍で希望の光となる象徴的なイベントとし

プロフィール

- ◆ 面積 42・92km²
- ◆ 人口 7万712人
- ◆ 世帯数 3万350世帯

〔将来都市像〕緑豊かで健康な文化田園都市

〔まちの特徴〕京都・大阪・奈良の中間に位置し、大都市への交通利便性が高く、豊かな自然に恵まれたまち

〔特産品〕玉露、田辺なす、えびいも、たけのこ、一休寺納豆



京田辺市長
上村 崇



〔観光〕酬恩庵「一休寺、大御堂観音寺、甘南備山、飯岡の茶畑(平成27年に日本遺産「日本茶800年の歴史散歩」の一つとして認定)

〔イベント〕二月堂竹送り、大住隼人舞、ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ、一休さんウォーク、全国小学生ハンドボール大会、京都木津川マラソン大会、いす・1グランプリ

て、また京田辺に関わる全ての方が、気兼ねなく参加でき、つながりを確認できる祭りを目指し、引き続き準備を進めてまいります。今後も「緑豊かで健康な文化田園都市」の将来都市像の下、自然と調和した美しい品格のあるまちづくりを進め、市民の皆さんに「いつまでも住み続けたい」と思ってもらえるよう取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

ひと・地域・くらしが豊かで 「元気あふれるまち」を創る

自然・文化・ひとを
未来につなぐまちづくり

豊後大野市は、大分県の南部に位置し、豊かな自然と雄大で美しい大地、そして、先人たちの英知

とたゆまぬ努力により脈々と受け継がれてきた歴史・文化・伝統があるまちです。

また、肥沃な大地と清らかで豊富な水の恩恵を受けながら、丹精込めて丁寧に行われる野菜は、「大分の野菜畑」と呼ばれるほど多彩でおいしく、四季を通じてさまざまな旬の野菜を楽しむことができます。

一方、過疎・高齢化が進む本市では、高齢化率が44%を超え、今後も増加していくと予測されていますが、高齢者人口は平成29年をピークに減少傾向となつています。これは、高齢者人口以上に生産年齢人口や年少人口の減少が大きいことを意味しており、このことが現在、そして将来の大きな課題となつていきます。

このような状況から、この豊後

大野市を未来に向かってつないでいくためには、地域で育った若者が地域に残っていくようなまちづくりを進めていくことが必要と考え、現在「豊かなひとを育む」とを創る「豊かなひとを育む」豊かな自然・地域を未来へつなげる」の三つの柱を中心に、それぞれの地域が持つ魅力や個性、特徴を最大限に生かしながら、次世代の子どもたちにすばらしい豊後大野のまちを引き継いでいけるよう、「持続可能な豊後大野市づくり」の実現に向け、各種施策に取り組んでいます。

まちづくりを担う 人材の確保に向けた 新たな取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大で人々の生活様式や働き方が変化



多機能型関係人口拠点施設（内観イメージ図）

し、最近では、都市圏から地方へ働く場所や住む場所を求める機運が高まりを見せる中で、2拠点居住という新しいライフスタイルを可能にするため、テレワークや企業に向けてのセミナーなどを行う「ワーキングスペースをはじめ、移住に向けたイベントや相談を行うコミュニケーションスペース、働き方改革に対応する環境づくりのためのサテライトオフィス、滞在者の受け入れを行うゲストハウス、観光客も取り込みテレワーク利用も



「日本の滝100選」にも選ばれた名瀑「原尻（はらじり）の滝」



総合体育館などが集まるスポーツゾーン

また、本市では、関係人口の創出はもとより、人口減少やコロナ禍で低迷する地域経済の活性化を図るため、スポーツツーリズムを推進しており、現在、その拠点づくりとして、駅や宿泊施設から徒歩で約10分、商業施設まで車で5分圏内にある総合グラウンドや野球場、屋内プールなどのスポーツゾーンに大型複合遊具や全天候型体育施設、武道館などを整備し、施設の集約化と機能強化に向けて取り組みを進めているところだ。

可能なカフェスペースなどを備えた、多機能型関係人口拠点施設を整備しています。

今後、この拠点施設において、都市住民などからの多様な人材と地域内人材との融合による地域資源の発掘や、新たなビジネスを生み出していくローカルベンチャーの立ち上げを支援していくことで、関係人口の創出・拡大を図り、将来のUIJターンにつなげてまいります。

豊後大野で「ととのう」

大分県は、温泉の源泉数、湧水量共に日本で、「おんせん県おおいた」をキャッチフレーズに大分の魅力を全国に発信しています。が、本市は「おんせん県」にあつて温泉が一つもないまちです。しかし、本市には九州で唯一「日本ジオパーク」と「ユネスコエコパーク」の両方に認定された、素晴らしい自然と雄大で美しい大地、そして、古くから薬草を炊き上げ蒸し風呂を楽しんでいた石風呂の文化があります。



大自然の中で癒やされるテント Sauna

こうした特色を背景に、今後、「大自然を満喫できる「アウトドア・Sauna」により、本市の新たな魅力

力や活力を生み出していくため、本年7月に「Saunaのまち」を宣言しました。

地元で発足した「おんせん県いサウナ研究所」に加盟する市内5カ所の宿泊施設やキャンプ場に、廃材を使用したサウナ小屋やテントサウナなど、それぞれ趣向を凝らした「アウトドア・Sauna」が設けられ、Saunaで汗を流した後は、川から引いた水風呂や、水

プロフィール

- ◆ 面積 603.14 km²
- ◆ 人口 3万4283人
- ◆ 世帯数 1万5901世帯

〔将来都市像〕豊かな自然と文化を未来につなぐ、やすらぎ交流都市

〔まちの特徴〕優れた文化遺産や伝統芸能、四季折々の新鮮で豊富な食材など、魅力ある地域資源が多くあるまち

〔市町村合併〕平成17年3月31日、大野郡三重町、清川村、緒方町、朝地町、大野町、千歳村、犬飼町が合併して誕生



豊後大野市長
川野文敏



風呂代わりに清流や水中鍾乳洞で体を冷やすことができ、多くの方が、自然と一体になれる「アウトドア・Sauna」で、身も心も「ととのう」極上の体験をしています。

今後は、Saunaの後に食べる「Sauna飯」の選定や、「Sauna万博 in 豊後大野」の開催など、「アウトドア・Sauna」を観光資源として活用し、地域と連携したまちづくりに取り組んでまいります。

〔特産品〕乾椎茸、かんしょ、夏秋ピーマン、白ネギ、カボス、グリーンピーチ、市内酒蔵の日本酒と焼酎

〔観光〕原尻の滝、沈壺の滝、出会橋・轟橋、朝倉文夫記念館、稻積水中鍾乳洞、アウトドア・Sauna

〔イベント〕巡藏、チューリップフェスタ、犬飼名物どんこ釣り大会、御獄流神楽大会、用作観光もみじ祭り、ひょうたん祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。